



## このひと

社会福祉学科 1979年(昭和54年)卒  
小川 恭子さん (新29)

社会との繋がりを持ちながら、役に立ちたいという10代からの思いは、今もずっと続いていきます



大学卒業後入庁した神奈川県庁で38年間勤め、今春退職されました。その間に3人のお子さんを育てあげ、現状に疑問を持つと即行動で次々と新しいことを始められた小川さん。そのぶれないまっすぐな人生を少しだけ覗かせていただきます。

励まされます。仕事も子育ても、大変な事より喜びの方が大きかったので続けられたのだと思います。



〇仕事をすることで心がけたことは？

10代の頃から、女性も経済力をつけて自立しなければと考えていたので、結婚しても子供が出来ても、仕事を辞めようと思ったことはなかったです。

〇それでも仕事と子育ての両立は大変だったのでは？

大変でしたが何とかなるもの。家庭を持つことで、夫や子供の友達などを通して自分の世界もどんどん広がりました。仕事で辛いことや嫌なことがあっても、子供に癒され

受け取ったボールはすぐ返すということ。与えられた仕事は何が何でもやり遂げて上司に返す、しかも出来るだけ早く。そういう性分なんです。どんな仕事も、嫌だとか、なぜ自分に？などと考えずに仕上げることで、仕事のスキルも上がり、時間の使い方も上手になります。そのうちに周りからも信頼されるよ

うになりました。

それを証明するように女性としても数少ない管理職に就き、持ち前の行動力で子供の貧困連鎖の問題や生活保護の適正受給などに、次々と取り組まれました。そして平成26年より横須賀三浦地域県政総合センター副所長に。

この地域は県内でも人口減少が著しい地域です。なのに、少子化や非婚化・晩婚化に取り組む議員や委員会のメンバーはほとんどが男性でした。そんな現状に疑問を抱き、体が動きました。その一つが「三浦半島女性ビジネスネットワーク」です。女性がもつと声

### <プロフィール>

- 1979年 日本女子大学社会福祉学科卒業  
神奈川県庁 入庁
- 2010年 保健福祉局福祉部生活課課長
- 2013年 産業労働局観光商業部長
- 2014年 横須賀三浦地域県政総合センター副所長
- 2015年 NPO法人カナライズ立ち上げ
- 2017年 三浦半島女性ビジネスネットワーク創設  
一般財団法人行政書士試験研究センター勤務

を上げ力を発揮していくために、女性の経営者の方々に声をかけました。一人では何もできなくても、多くの力が合わされば何かが出来ます。女性が活躍することで地域は活性化し、より魅力的な街になると考えています。さらに少子化対策として、イベントやセミナー、交流会を通して独身男女の婚活を支援する「NPO法人カナライズ」を立ち上げました。

〇次々に新しいことに取り組む原動力は？

疑問や問題点があればすぐ動きたくなり、頭で考えるより先に足が動くんです。マイナスの事は考えずにとにかく前向きに進んでいくと、助けてくれる人も現れます。自分が心を開けば、周りも変わり、見える景色も変わってきます。二足いえ三足のわらじを履いての生活は多忙を極め、気分転換にと始めた津軽三味線やフラワーアレンジメントをする時間はなかなか取れないとか。さらなる挑戦を期待しています。